

関西大学の財産は、一流の資源と総合力。それに人材。

今、世界は100年に一度と言われる国際金融危機に直面し、日本も大きな変化に迫られています。このような時代には、従来のモデルや経験が通用しない出来事が多く起こります。すなわち、自らの頭で考え、自律的かつ積極的に行動する「考動力」が強く求められる時代なのです。今年で創立124年目を迎えた関西大学は、「知」の世紀をリードし、新しい「公共」を創造する力漲る21世紀型総合学園の構築に力を注いでいます。ダイナミックで行動力のある知識人、新たな世界を切り拓くことができる「考動力」あふれる人材を養成する学園として、時代に挑んでいます。

本学の教育理念は「学の実化」、つまり「学理と実際との調和」にあります。この学是を基盤とし、伝統に立脚しつつ、柔軟な姿勢で時代の変化に対応し、日本だけでなく世界のために貢献できるトップランナーの育成を目指し、新たな取り組みを続けていかなければなりません。

また、本学が持つ一流の資源を有効活用し、総合力を遺憾なく発揮することで、教育、研究の質をより向上させ、世界をリードする大学へと更なる発展に尽力することが、学長としての私の使命であると考えています。

第40代学長に就任  
— Harushige Kusumi

楠見晴重

世界を切り拓く  
「考動力」あふれる  
人材を育てたい。

時代をリードする21世紀型総合学園を目指して

楠見晴重(くすみ はるしげ)  
1953年大阪府生まれ。1978年関西大学工学部土木工学科卒業、1981年関西大学大学院工学研究科博士課程後期課程中途退学。1982年関西大学工学部助手。専任講師、助教授を経て、2002年教授。2007年環境都市工学部教授となり、同年4月から学部長に。2009年理系出身者初の関西大学学長に就任。学校法人関西大学理事、土木学会フェロー会員、物理探査学会理事、岩の力学連合会副理事長ほか、共編著書に「地圏環境情報学 地下を診る最先端技術」など。